

刊夕日一月四



定額 一月五拾圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
廣告料 第一日五圓 第二日四圓 三日以上三圓
電話 東京二二二二番 大阪二二二二番
發行所 東京市丸の内區本町二丁目二番
印刷所 東京市丸の内區本町二丁目二番

宿善開發の日

眞 繼 雲 山

現代人は金と名譽とに渴すること甚しく、これを求むるに急であるが、それと反對に法を求め道を成じやうといふ願ひが足りぬ、或ひは全然その願ひを持たぬ人々が多い、それは丁度東京發の急行列車が下の關に到るやうに人間とは本來名利の奴隸となつて墓場に突進すべく還命づけられてゐる動物に外ならぬ。

その昔に植えておいた徳本が時節到來して花が咲いたのである、猶に説法しても猫は振り向かない、丁度そのやうに人間とは本來名利を好む無明煩惱のかたまりである、佛のゐます國はその無明とは正反對の位置にあるのだから、人間が道を求むる心の乏しさに不審はない。

汽車が下の關にゆくことは結構であるが人間は勇敢に墓場に突進するだけでは聊か困る、所が迷ひのまゝで墓場行といふ本然の運命を振り切つて、その墓場を乗り越え、永世の世界に轉出するは容易でなく下の關の汽車が青森に逆行する以上の難事業である、それは餘程の宿善の助けあるにあらざる限り、道を求め佛を求むるといふ心の起さるものではない、左れば經にも「もろくの罪の衆生は惡業の因縁をもつて阿僧祇劫を過ぐれども三寶佛法僧の御名を聞かず」とあり、その難遭稀有の佛の名を聞き、道を求め佛に値ひたてまつるといふことは宿善の開發によるのである、即ち

無明煩惱とは、たとへば眞つ黒々の炭團のやうなものであつて、たゞん自体には火の氣の附いて、それに火の氣が附いて赤く燃えたりいふのは、たゞん以外の何物かゞ点火したからである、丁度そのやうにとても佛の話などに振り向く筈のない煩惱具足の人間が、法を求むるといふ一点の火氣が附いたことは、それは正しく炭團自身の力ではなく、人間以外のいたらさが加はつたのである、これを佛の慈悲佛の回向と考へることは至當であり、その佛を求むる一念の萌したときが佛に救はれた時に外ならぬ、その信心とは佛の心である、燃える筈のない炭團が赤くなりかけたのは点火の力であるやうに本來まことの心

のない筈の人間に、まことの心(佛心)の宿り初めたことはそれが救済された證據であるといふのが、親鸞聖人の他力回向の思想である聖人の宗教はこゝに根ざしてゐるのである。

左れば方今佛敎講演會などを聞きに来る人々は既に救済済みの御朋御同行であるから、たゞ共々に手を取つて取つて感謝し合へばよい、救済の相手は佛敎の話を鼻であしらつて聞かうともせぬ無信の輩であるべきでその連中こそ未だ救済の火の氣の附いてゐない冷たい炭團に外ならぬのであるから、その人々に追ひすがりて佛の信を回向し佛に代

文藝募集

つて点火べきが佛弟子の任務であり、還相回向の味はひである、救済済みの聴衆に佛敎講演を聞かせてゐるのは樹を海中に持ち込んで海水を量つてゐるやうな話である、佛の大悲の代官として水なまきところに水を運び信なきものに信を傳へねばならぬしかしそんな連中話してもなかつて分るものではない、それが分るといふのは、その當人が宿善開發の日に相當してゐるからである。

タンヒル ナミキ 萬年筆製造元
高級高級筆
標準六種金ペン 裝着
定額四圓五十錢以上
平町公園前 角忠 佐々木商店 電話二三三番

特約店 平町公園前 角忠 佐々木商店 電話二三三番

◆昭和産業博覽會本館正面ニ出品。。。。
◆御試用ハ弊店ニテ。。。種類豊富。。。。
◆學生向 二、〇〇ヨリ 紳士向 一七、〇〇

特製 ヒナ人形
ヒナ道具賣出し

日頃おなじみの御得意様方へ謝恩の爲め特賣致します、どうぞ御一覽の程を御願致します。

平三丁目 金太郎玩具店

内科 難波 睦
醫學博士 難波 睦
電話五〇二二番

平町新川端(釜屋新宅向)

形人ナヒ

今年驚く程安價になりました
東京一流の人形師玉秀の特作品を陳列いたしました
ぜひ御覽下さい。。。。
お待ちして居ります
二丁目 福フクタヤ

皆三三二!!!

自動車は最新の三三二型!!!
車体番號は福島三三二番!!!
そして電話は三三二番へ

此度皆様の御愛顧と御後援を仰ぎタクシー部をもうけました。處女營業の事として地方皆様の御愛顧を得て進みたく従業員はヘビーを盡してサーピスあるのみです。車は御氣に召す様にと三三二年初春のトップを切つた最新型を整ひましたから是非お召し下さい。

一九三三車と車体番號に因み
三三番の電話を御利用下さい
平町白銀町 加藤丈夫營業所

不二タクシー
主任 菅本 昇

謹告

今般田町火災の際に類焼致し候爲め左記に於て一層の親切丁寧を旨として營業致す可く候間何卒御引立を賜り度御願ひ申し上げます

◎假營業所
平町田丸新デパート内
根本時計店

吉田眼科病院
平紺屋町、電話六八八番

春陽らららかなけふ

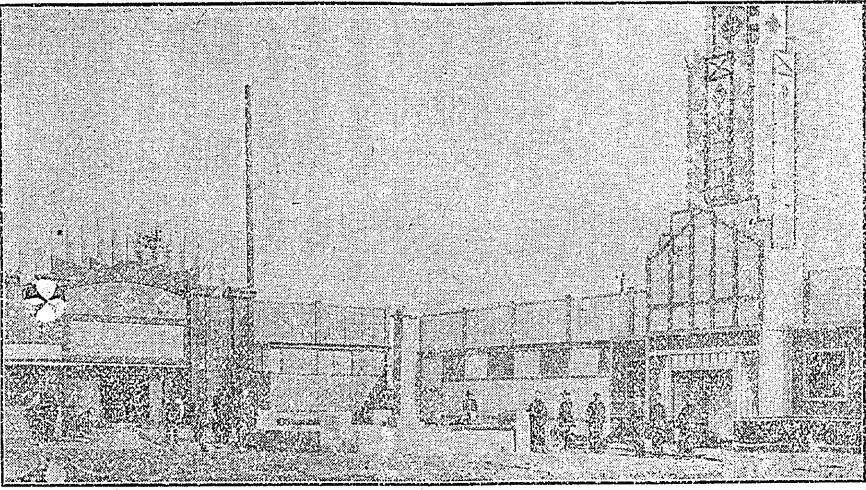
昭和博開會式

▽平全町に博覽會氣分横溢 煙花間斷なく轟く

昭和産業博覽會の開會式を
舉行する、けふ平全町の上空
は一点の曇なく晴れわたる
柔かな

春陽が美々しく装ひ
を凝らした各會場に光彩を
添えて式場たる第一會場前
には萬國旗へんぼんとして
翻る、早朝より煙花轟く平
全町は各區夫々アーチや町
提灯等の裝飾豊しく博覽會

◇第一會場の一部



氣分が

濃厚に漲り定刻前よ

會場目がけて詰め掛くる
來賓續々と相次ぐ盛況にて
式場に取り付けられたマイ
クロホンよりは刻々と状況
が放送される、午前十一時
總務酒井助役の司令に依つ
て副會長井上縣議の開會の
辭あり一同起立裡に

君ヶ代 奏樂、博覽會

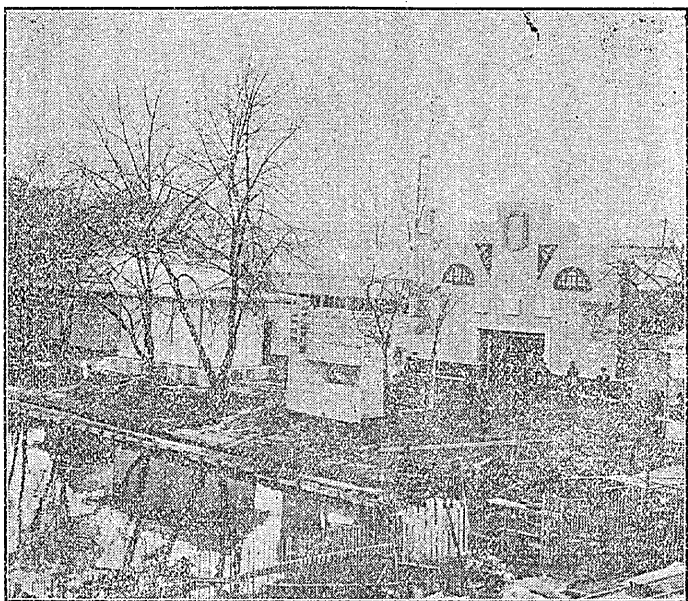
の主催団体た
る産業獎勵會
長野崎縣議左
記會務報告を
朗讀

産業獎勵
會長會務
報告

平町産業獎
勵會主催昭和
産業博覽會の
開會に方り茲
に事務の概要
を報告する事
を得たるは最
も光榮とする
ところなり。

抑も本會開
催の議を決し
たるは昭和六
年十月末にし
て之が準備期

間の極めて短き爲め本會
の事務開始以來關係者一
同夙夜勵精日も亦足らざ



部一の場會二第

るの感ありしも幸に關係
冬位の熱誠なる指導と出
品人諸氏の深甚なる努力
により豫定の如く茲に
設備の大成を見たるは洵
に欣快に堪へざる所なり
而して本會々場は第一、
第二、第三の三ヶ所に之
を設け會場は陸海軍省を
始め各官公衛の参考品を
陳列せり第三會場に於け
る敷地總面積五千餘坪建
物總坪數一千餘坪にして

其の出品區域は朝鮮滿洲
樺太臺灣等を始め三府二
十餘縣の各方面に亘り出
品小間數五百人員二千餘
人出品點數約三萬點を算
するの盛況を呈するに至
り。

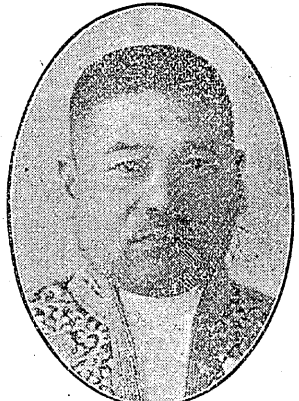
茲に謹みて経過の概況を
報告し併て關係各位に深
厚なる謝意を表す。

昭和産業博覽會
平町産業獎勵會長

野崎 滿 藏

續いて會長伏見町長の昨報

依つて式を閉じ直ちに祝宴
に移り
平藝妓の磐城四季、



總裁告辭

平町産業獎勵會主
催昭和産業博覽會の
準備成り本日茲に開

會式典を擧ぐるに至りた
るは洵に欣幸に堪へざる
なり。
抑々産業立國は我國建國
所以來の大國家にして其
の向上發展か國進伸此の
基調たる事は今更贅言を
要せざる所にして世界各
國が競ふて産業の振興に
銳意施設しつゝある所以
も亦此に有するなり然り

内相祝辭

福島縣平産業獎勵會茲に平町協賛會石城産業各團體
及平町各新聞社後援の下に昭和産業博覽會を開催す
地は東北の邑に屬し時は陽春の好季に當る
惟ふに國を擧げて今方に大に産業の振興を策し以て
積年沈滞せる財界の不況を一先するの殊に其の急を
感するの秋、この企劃を見るは眞に感の情に堪へず
冀くは克く此の會をして地方の開発産業の振興の上
に資補する所あらしめんことを本日この盛儀に際し一
言所懐を寄せて祝詞とす
内務大臣鈴木喜三郎

告辭朗讀次ぎ村井本縣知事
が總裁の資格に依つて壇上
に巨軀を運び別項の告辭及
び内務大臣鈴木喜三郎氏の
祝辭を朗讀、祝電披露あり
代議士鈴木辰三郎 縣會
議員赤坂毅一 監督判事
中島重藏 町議代表花澤
五五六 平商工會長山崎
清三 協賛會長青沼鋒太
郎
其他多數來賓の祝辭あり副
會長萩原縣議の閉式の辭に

屋敷娘に續いて評判の平小
唄の手踊演せられ賑ひ頂點
に達し萬歳の聲場を歴した

主もなる

祝電

△農林大臣山本佛次郎△
商相前田米藏△遞相三土
忠藏△陸相荒木貞夫△在
相床次竹次郎△酒井本縣
商工課長△松山市長△今
治市長△長岡市長△盛岡
市長△山形市長△本縣町
村會長△岐阜市長△水戸
市長△郡山市長△鶴岡會
議所△其他

大塚の 學生靴!!!

耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇

不安心なるキカイ靴よ
り、安心得る弊店の靴
を

大塚支店製靴部
電話七七番

藤沼醫院

平町紺屋町
電話七〇五番

素来剣術

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲 畫

【第十六席】

神影流の達人秋山要介

(16)

見ん事妖怪を……

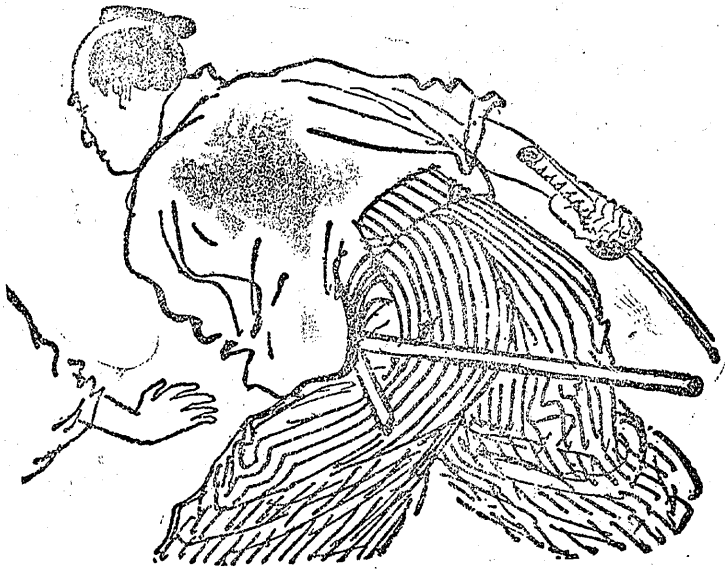
秋山要介は井口の寮に参り娘の居室より二室ほど離れた部屋で勝五郎と番頭の喜兵衛を相手に盃を擧げ夜の更けるを待受ける内に上野で撞出した二時の鐘をれが妖怪の叫ぶ如く物凄く聞える時に喜兵衛が

喜「先生お嬢さんの部屋を御覽下さいまし、屹度吟中が参つて居りませう」
要「さうか俺が見届けてくれる」

一刀を掲げておまの居る次ぎの室に來て襖を細目に開きそつと差覗くと、行燈の灯に照し出された二人おまは此方向にゐるが吟中は向ふ向きになつて何やらヒソ／＼話をしてゐるが不思議な事にはおまの着てゐる衣類はその縮柄も能く判らぬが吟中の衣類はその縮柄が透き徹るやうに見える、偕こそ怪物と視て開いて躍り込んだ秋山、アツと驚いて二人は逃げんとするを要介が一貫子忠國の一刀に手を掛つたがバチ／＼響き渡る鏝音キヤツと悲鳴を上げて吟中はバツタリ仆れた、おまはアレーといふとこれも亦其處へ打倒

れた、要介は一刀の血を拭ひ
要「たうとう化物も正體を現はす事になつたか、喜兵衛、勝五郎、怪物は刺止めた、此處へ來て見ろ」
と云はれて二人は其處へ

ツに斬られましたな、オヤ番頭さんお嬢さんの手當をしなせえ、氣絶をしてゐるんだ」
喜「オヤ皆んな此處へ來て手を貸しておくれ、秋山先生が妖怪は退治して下さつたがお嬢さんはそれに驚いて目を眩した、其方々伴れて行つて介抱しておくれ、ソレ此處に氣付けがある」
藥屋だけあつて悠ういふ事があるの薬は豊富です、女中と寮番の爺がおまを別室に伴れ行き氣付を服ませ種々手當をしましてやうやく氣が付いた、此方は秋



駈付けて
勝「先生一體吟中になつてゐたは何の化物でございませう」
要「能く見ろ、それへ吟中が仆れて居る」
勝「先生之は化物ではございませぬ、吟中でございませ、オヤ／＼肩から真二

山要介です、吟中の死骸をゾル／＼引立て庭に投棄して、それを手燭を點けて見て居た勝五郎
勝「先生これは化物ではございませぬや、どう見たとて吟中だ、化物ならば正體を現はすでござんせう」
要「オヤ今暫く時を經ると

正體が現はれる、吟中では無いぞ、俺は確に妖怪と認めたら斬つて捨てた、自信なき事はいたさぬ」
勝「左様でござんすかい、ねえ番頭さんこれは化物らしくないね」
喜「然うサ今見る處ではぎん中だがこれが、どう變化するか」
と云ひながら死骸を見て居る内に東が空も白み大分明るくなつて來た、スルトこのぎん中の死骸が、次第／＼に變化して丈五六尺もあるか、一頭の狸となりました、オヤ驚いたは勝五郎と喜兵衛、それではこの畜生がぎん中に化けてお嬢を欺したか、憎い奴だと打据える、背を深く斬られて一刀の下にこの狸は絶命した斯くと聞いておまは羞しさに泣き伏したが、秋山要介に慰められて漸く氣を取直し、之れは下總行徳の親類へ出養生と號して其噂の消える迄と夫に引移つたが狸の死骸は谷中の寺院へ埋葬した、サア此事を聞き傳へた香具師が死版で印物を作り江戸市中を走つて歩く

と云つたが是以來要介の名が擧つた、根岸のため先生と云はれて大分弟子も附き朝から竹刀の音が聞えるやうになつた。
見習生募集
十四才より十六才迄
高橋時計店
精幸堂 號
委細面談
平町掻搦小路
(キクチ自動車店向)

大きな聲を出して仰々しく讀立てた、一枚が十六文秋山要介の僕の治助がそれを買ひ
治「先生御覽なさいまし、この雲に乗つてゐるのはた

<p>上田 外科醫院 平町 南町 電話二一九番</p>	<p>松村 村松 淋病 皮膚病 婦人病 胃性病 腸胃病 十二指腸病</p>	<p>見習生募集 十四才より十六才迄 高橋時計店 精幸堂 號 委細面談 平町掻搦小路 (キクチ自動車店向)</p>
--	--	--

<p>耳鼻咽喉科専門 氣管食道科 平南町 (電話一七〇番) 大和田醫院</p>	<p>花柳科専門 木村外科醫院 平町五丁目橋際 電話三〇九番</p>	<p>東京十軒店久月の雛人形陳列 お子様方が一年中で一番楽しみな桃のお節句が近づきました江戸の。檜舞臺日本橋の十軒店で永年御愛顧を受けて居ります弊店は今度初めて御當地へ参りました。是非一度御覽の榮を得たく御待申して居ります。今後永く御引立を頂き度くと存じますから値段と品質とで他店のまねの出來ぬ勉強を致します。 平町田町 (停車場前通り) 平マールケツト内 東京日本橋十軒店 久月本店直營 電話平局六〇三番</p>
---	--	---